*** 森林を育てて 地球を守ろう

治山と林道



2019「しまねの森林」フォトコンテスト入賞作品 <審査委員特別賞> 「山里の冬」 山崎秀司さん(安来市) 安来平野の冬の里山と民家、そして手前に広がる田園、かつては燃料や山菜などを採り、一部では林業も行われていた里山、 人とのつながりを伺い知ることができる作品です。 講評 審査委員長 日本写真協会会員 成相 吉堯

	令和元年度通常総会を開催
	トピックス (県立農林大学校)
	県からのお知らせ(全国植樹祭推進室) … 5 \sim 6
次	県の取り組み紹介(益田県土整備事務所) \sim 7 \sim 8
	会員コーナー (美郷町)
	森林協会からのお知らせ 10~14

令和元年度 通常総会を開催

令和元年7月22日、松江市の島根県林業会館において令和元年度通常総会を開催しました。 開会に当たり、速水会長から「昨年は4月に県西部地震により、大田市を中心に大きな被害を受けた。

また、7月豪雨は西日本に激甚な被害をもたらし、島根県でも県内各地で被害が発生した。今年は、 先週、津和野町で160ミリを記録するなど各地で激しい雨が降った。梅雨明けは近いと思われるが、 地盤の緩んでいるところもある。引き続き、土砂災害等に注意していただきたい。自然災害に対しては、 日頃から安全、迅速な避難体制の構築が必要だが、防災、減災に向け治山事業、森林整備事業を一層、 推進する必要があると考えている。

一方、県内では森林所有者の不在村化や担い手不足により、森林の荒廃が深刻な状況にある。こうした中、本年4月、「森林環境譲与税」を財源とした「新たな森林管理システム」がスタートした。これを機に、市町の業務を支援するため、市町と県からの委託を受け、当協会に「森林経営推進センター」を設置した。それぞれの地域のニーズに沿った支援をすることで事業が円滑に進むよう努めていく。また、森林協会は森林・林業施策の充実・強化と予算確保に向け、中央協会をはじめ関係機関や団体と連携を図りながら、今後とも取り組んでいく。会員の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご協力をお願いする。」旨の挨拶がありました。

続いて、森林土木事業功労者、治山・林道工事コンクールの表彰式が行われ、会長から表彰状と記念 品が授与されました。

来賓の島根県農林水産部長(吾郷森林整備課長代読)と一般社団法人日本治山治水協会並びに日本林 道協会長の祝辞(小原事業部長代読)の後、議事に入り、提案した6議案は全て提案どおり承認され ました。



速水会長あいさつ



森林土木事業功労者



会場の様子



工事コンクール

表 彰

(1)森林土木事業功労者

所属	氏 名
浜田市	寺戸一敏弘

(2)治山工事コンクール

工事名	施工場所	受賞者(代表者)
平成30年度県単施行地管理事業(川平地区)山腹工事	雲南市加茂町三代	株式会社常松土建 代表取締役 常松 則義
平成 29 年度復旧治山事業中山下地区 治山ダム工事	邑智郡邑南町日貫	有限会社白川建設 代表取締役 白川 博幸
平成 29 年度災害関連緊急治山事業外 ゴウロ谷・鷹ノ巣谷・栃下谷下・栃下谷地区 渓間工事	浜田市金城町波佐	株式会社毛利組 代表取締役 毛利 栄就
平成 29 年度(補正)復旧治山事業 名賀川地区(木尾谷上)工事	鹿足郡津和野町名賀	徳栄建設株式会社 代表取締役会長 安田 徳太

(3) 林道工事コンクール

工事名	施工場所	受賞者(代表者)
県営林道開設事業北山線第2工区 その4道路工事	松江市島根町大芦	株式会社庭の川島 代表取締役 多々納 敏
県営林道開設事業美保関線第7工区 その2道路工事	松江市美保関町美保関外	株式会社豊洋 代表取締役社長 木村 直樹
平成 29 年度(ゼロ国)林業専用道整備事業 (石休線 2 工区) 開設工事	飯石郡飯南町小田	森島建設株式会社 代表取締役 森島 拓也
平成 29 年度林道開設事業(森林管理道) 宮本聖谷線第1工区道路工事	出雲市多伎町奥田儀	株式会社安井組 代表取締役 安井 和広
平成 29 年度広域基幹林道整備事業 三隅線第3工区その15 道路工事	浜田市三隅町下古和	河野建設株式会社 代表取締役 河野 千加子
平成29年度林道開設事業春日山線(第2工区)工事	益田市匹見町落合	前田建設有限会社 代表取締役 前田 冨雄

(4) 林道維持管理コンクール

路線名	所在位置	受賞者(管理者)
城床線	松江市玉湯町	松江市長 松浦正敬



林業を学ぶなら 島根県立農林大学校林業科へ! ~ 森林のエキスパートを目指せ ~

島根県立農林大学校 林業科

飯石郡飯南町の中山間地域研究センターに併設している島根県立農林大学校林業科には、現在1年生 11人、2年生9人の合わせて20人の学生が在籍し、毎日厳しく且つチームワーク良く実習に取り組んでいます。

学生は全員親元から離れて町内にある寮や宿舎で生活し、学校までは主に自動車で通学しています。 学校生活は、朝8時40分からの朝礼で始まります。午前中は主に教室で学科を学び、午後から学科で 得た知識を忘れないうちに実習で体験し、頭と身体で林業技術を習得していきます。

近年は、成熟した人工林から効率的に木材を収穫するために、生産コストを意識して作業システムを考えるよう努めて実習を行っています。また、実習作業は安全第一。学生はもちろん教職員も集中して現場作業に取り組んでいます。実習中は、「足下に物が転がっていて躓いたりしないか」、「ワイヤが滑車に擦れたりしてないか」、また「重たい機材を楽に運ぶ手段はないか」など様々なケースで確認し合いながら、技術者としての成長を促しています。

木材生産では、チェーンソーによる伐木・造材、目立てやメンテナンスに力を入れています。また、県内の木質バイオマス発電関係事業者の皆様からいただきた寄附金により導入したハーベスタ (KESLA20SH)を使って、1年次には学校内の実習場で基本的な操作やメンテナンス方法を習得し、2年次には実際の集材現場の山林で、レンタル機のスイングヤーダ及びフォワーダと組み合わせた作業システムの流れを集中的に実習します。



チェーンソー伐倒実習



ハーベスタ操作実習

造林・育林では、普通苗やコンテナ苗の植栽、下刈り、除伐、枝打ち、保育間伐まで、それぞれの施業を適期に行い、林業の基礎的知識を身に付けます。また、中山間地域研究センターの研究員を講師として、育苗実習、きのこ栽培、森林病害獣虫対策、木材利用など様々な分野を学んでいます。

学校で学ぶ実習や、外部機関が行う講習に参加することにより、2年間で林業に従事するために必要な数多くの資格や免許等を取得することができます。まだまだ経験が少ないので技術的には未熟ですが、卒業時には即現場作業に従事できる人材に育っていきます。





植栽実習

赤名湿地の草刈りボランティア

学校での勉強だけでなく、島根県自然環境保全地域に指定されている赤名湿地性植物群落の草刈りボランティアや、寮がある下赤名地域の秋祭り樂打ちなど、地域活動へ継続的に参加して地元の文化・歴史を学ぶとともに、地域貢献の意識を高めています。

放課後は、多くの学生が寮や宿舎に帰ってゲームや読書などで自分の時間を過ごしています。中には、コンビニやレストランでアルバイトに勤しむ者もいます。どこの業界も人手不足の昨今、若い学生のアルバイトは貴重であり、大きな戦力になっているようです。学生にとっても収入源となることはもちろん、

学年	取得できる資格・免許		
1 年次	○大型特殊自動車免許		
	○チェンソー作業従事者特別教育		
	○刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育		
	○小型移動式クレーン運転技能講習		
	○玉掛け技能講習		
	○車両系建設機械運転技能講習		
	(整地・運搬・積込用及び掘削用)		
	○機械集材装置運転者業務特別講習		
	○林業架線作業者主任者免許の講習修了資格		
	○林業種苗生産事業者講習会修了証		
	○日本赤十字社救急法救急員認定証		
2年次	○フォークリフト運転技能講習		
	○狩猟免許(わな猟免許)		
	○車両系木材伐出機械等運転業務特別教育		
	(伐木等・走行集材・簡易架線)		
任意	○森林情報士(卒業後申請)		
	○毒物劇物取扱者(一般、農業用品目)		
	○危険物取扱者免状(乙種4類等)		

働くうえで社会勉強になることから、学業に支障の無い範囲で頑張っています。



楽しい寮生活



放課後のアルバイト

農林大学校林業科は、来年度から1学年の定員が10名から20名に増員します。また、「森林技術コース(仮称)」と「経営管理コース(仮称)」の2コースを設けて、より現場のニーズに合った人材育成を目指します。関係者の皆さまには、学生募集や雇用を通じて農林大学校林業科を多いに活用していただければ幸いです。



第71回全国植樹祭 開催に向けて

令和2年5月31日(日)に大田市三瓶山北の原で開催される第71回全国植樹祭まで、200日をきりました。島根県林業課全国植樹祭推進室では、基本計画に沿って開催準備を進めています。

○島根県の特色を活かした大会の基本方針

- ①循環型林業の実践に向けた木材利用や森林づくりの発信
- ②県民参加の森づくりの推進
- ③島根県の歴史文化や豊かな自然等の魅力発信

開催規模: 招待者 4000 人程度 (うち県外から 1150 人程度)

○式典・大会の開催方法

第 22 回全国植樹祭 (昭和 46 年)、第 15 回全国育樹祭 (平成 3 年)、第 71 回全国植樹祭 (令和 2 年)を通じて、植樹、育樹、収穫利用、植樹を同じ会場 (三瓶山北の原)で実施することにより、「緑の循環」を実現します。



○大会テーマ

「木でつなごう 人と森との 縁(えにし)の輪」作者:吉田隆博さん(島根県大田市)

○大会シンボルマーク



作者:松浦 康友さん (島根県大田市)

○大会ポスター原画



作者:宮口 泰翔さん (出雲市立高浜小学校4年) 平成30年度時点

〇大会テーマソング

島根県松江市出身のシンガーソングライター浜田真理子さんに大会テーマソングを制作していただきました。

楽曲名:HOME(ホーム) 作詞・作曲・唄:浜田真理子

○お手植え・お手播き樹種の紹介

島根県の自然環境に適した樹種で、県民に親しみのある樹種を選定しました。





○カウントダウンボード完成

開催 200 日前にあたる 11 月 13 日(水)に開催までの日付を刻む、カウントダウンボードのお披露目をしました。県庁ロビーをはじめ、JR の駅などの公共施設で展示予定です。



- ・県産材を使用しています。
- ・3枚のパネルは山・木・木と人 の共存を表し、人と森との繋が りをイメージしています。
- ・時を刻むパネルは砂時計をイメージしています。



○200日前記念イベントを開催

11月17日(日)に200日前を記念したイベントを行いました。イベントでは、岐阜県御嵩町と島根県内の児童たちに苗木栽培を通した交流活動※の成果や植樹祭への応援メッセージを発表してもらい、開催機運を盛り上げました。



※ "みーもの松"を育てようプロジェクト島根県の水と緑の森づくりキャラクター「みーもくん」と岐阜県御嵩町のキャラクター「ミーモくん」がおともだち協定を結んだことから、双方の小学校児童による苗木育成を通した交流活動。

H P



広域基幹林道「匹見美都線」の工事着手

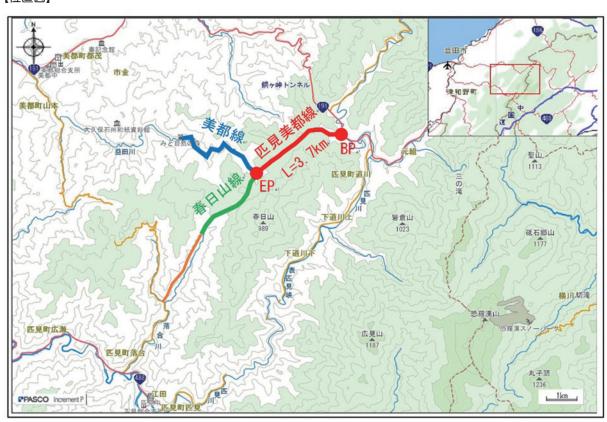
島根県益田県土整備事務所 農林工務部 治山・林道課

本路線は林野庁が昭和48年に策定した「大規模林業圏開発基本計画」を基に、長期的・総合的な地域開発を目的として、大規模林業圏開発林道事業の中国山地公団幹線・支線林道山陰ルート「波佐・阿武線」の「匹見・美都区間」として計画された林道です。

この事業は森林開発公団(後の独立行政法人緑資源機構)が事業主体となり各区間の整備を進めてきましたが、平成19年に緑資源機構が廃止されたことに伴い、平成20年度からは島根県が事業を引継ぎ、 広域基幹林道整備事業として各区間を整備することになりました。

その中の一部である匹見・美都区間は、路線名を「匹見美都線」として、平成 26 年度より事業着手し、 測量・設計及び各種調整を経て本年度より路線起点となる益田市匹見町道川地内の橋梁工事に着手しま した。

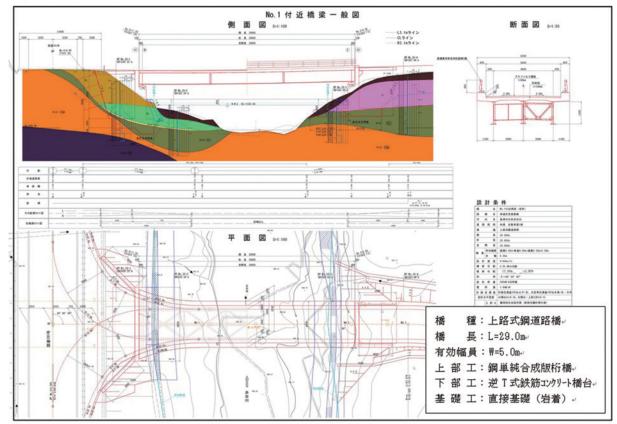
【位置図】



匹見美都線は益田市匹見町道川地内から同市美都町都茂地内を結ぶ延長 L=3.7km、幅員 W=5.0mの道路です。

また、匹見美都線の接続道路である林道春日山線と、支線として計画されている林道美都線が同時採択され、適切な森林整備の推進と地域環境の改善等のために3路線を並行して一体的な整備を進めています。

【橋梁一般図】



(現在行っている工事の紹介)

国道 191 号に接続する起点箇所の橋梁工事より着手し、着工年度の今年は起点側の A1 橋台を施工 しており、来年度工事で対岸の A2 橋台と上部工を順次施工する予定です。

橋梁工事の期間は3カ年を予定しており、令和3年度末の完了を目指し進めています。

【写真】

○起点付近着工前(令和元年9月撮影)

○橋梁下部工施工中(令和元年 11 月撮影)





大規模林業圏開発林道事業で進められてきた県内各路線も、匹見美都線の着工により全路線・全区間 の着工が実現しました。

路線開通の効果も大いに期待されていますが、県内大規模林道の全線開通により、周辺森林の林業活動はもとより周辺市町の広域的な物流等、地域振興に大きく寄与するものと考えます。

県内で最後に着手した大規模林道「匹見美都線」の早期開通に向けて今後も取り組んでいきます。



美郷町における「ドローン技術の活用」に向けた取り組み

美郷町建設課

主任 林 幹 樹

1. 美郷町ドローン活用の背景

美郷町では、令和2年度に空の駅構想を町を挙げて策定に向けて動いている。この背景には高齢化率45パーセントを超え、高齢者は車がなければ買い物や通院が難しい、集落が点在している。中山間地域が抱える課題で災害時の道路の損傷・通行止めによる孤立地域の発生や支援の遅れ、災害時に長時間の大規模停電などもある。これらの事を解決する為、ドローンを利用した「災害に強いまちづくり」と「不便の少ないまちづくり」の構築を美郷町は目指している。

2. 第55回林道研究会に参加して

今回、10月8日~9日に第55回林道研究会に参加した際、石川県宝達志水町農林水産課による「UAV写真測量を活用した林道災害復旧測量・設計への適応性について」、愛媛県南予地方局産業経済部森林林業科による「大規模災害発生時におけるドローン等を利用した測量について」を公聴し興味深く感じた。

災害発生時は、被災状況の把握や災害復旧に向けた早期の対応が必要とされているが、大規模になると災害箇所が多数となり人手が足りなくなる。発生現場は落石等の危険性から立入が困難となることがある。これらの課題を解決する一つの手段としてドローンによる測量が有効だと今回の研究会を公聴して感じた。



まずドローンであれば危険箇所に立ち入ることなく調査が可能であり、測量に関してもドローンに搭載したレーザーや写真ですることが出来ること知った。人手不足にも有効な手段であり、通常測量においては複数人で対応が必要になるがドローン測量においては人員を少なくすることが出来る。

しかし、問題点も研究会を公聴して感じた。まずは機材が高価であり限られた業者しか所有していない事、そしてドローンの操縦や測量には極めて高度な知識と技能が必要であると思った。



▲チェンソーの音が鳴り響く、林道湯抱池田線

だが、今後美郷町ではドローンを利用 した災害に強い町づくりと不便の少ない まちづくりを目指しており今後もドロー ンの利用方法を注視していく必要がある と考える。



林業団体が県及び県議会へ要望

令和元年10月24日、島根県森林組合連合会、(一社)島根県森林協会、(一社)島根県木材協会、 島根県林業種苗協同組合が島根県知事、副知事、総務部長、農林水産部長へ要望活動を行いました。











<要望項目>

- 1 林業振興対策の推進(造林・林業専用道整備予算確保、生産性向上対策の支援など)
- 2 木材産業振興対策の推進 (製材工場の規模拡大、販路拡大、公共建築物の木造化等への支援など)
- 3 林業就業者増員対策の推進 (県立農林大学校に対する支援制度の拡充など)
- 4 保安林等の整備の推進 (防災・減災、災害復旧のための治山事業予算の確保など)



森林経営推進センターによる森林経営管理制度の支援

1. はじめに

新たな森林管理システムとして「森林経営管理制度(以下、制度)」が平成31年4月にスタートし、本協会内に森林経営推進センター(以下、センター)が組織(本誌 No120 により紹介)されてから半年以上がたちました。センターにおいては、制度を運営するために市町村が行う業務の「技術支援」に加え、各市町村の取組状況・課題の共有や解決に向けた検討を行う「推進連絡会議」の運営や、市町村制度担当者の能力向上を目的とした「担当職員研修」の企画・実施を行ってきました。

2. 市町村業務の「技術支援」

制度運営に係る市町村業務の技術支援としては、各市町村において制度対象森林の選定等を行うために設置された地域協議会にアドバイザーとして参画し(写真 1)、技術的助言や資料作成等の技術サポートに取り組んでいます。具体的な技術サポート例としては、市町村選定や事業体提案のあった制度対象森林について、地域協議会またはその事務レベルでの作業部会により、「意欲と能力のある林業経営者(以下、林業経営者)」への再委託の可能性等の検討を行うため、森林簿や林地台帳、または法務局の公図や県土木部から入手した航空レーザーデータといった既存資料を整理し、データ解析による主題図の作成が可能な QGIS により、所有者区分図・立体図等を作成して提供しています(図 1)。また、センターの外部委託による標準地調査によって、既存資料よりも詳細な森林資源情報を把握し、収支試算による採算性・再委託の可能性を判断するための資料作成(図 2)も行っているところです。



写真1 地域協議会(アドバイザーとして参加) 図1 QGIS(フリーソフト)を活用した所有者区分図・立体図

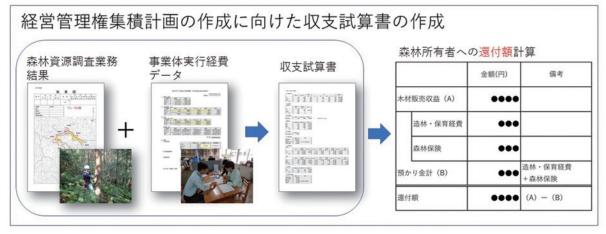


図2 森林経営収支試算資料

3. 森林経営管理制度に係る「推進連絡会議」

各市町村の地域協議会においては、地域の実態に即した 検討が進められていますが、あわせて各市町村の取組状況 や課題の共有・解決に向けた検討を進めるために、推進連 絡会議を開催しています。

今年度の初回会議は4月に西部地区、5月に東部地区において開催し、第2回目は9月に県下全域で一堂に会して開催しました(写真2)。特に第2回目の会議においては、各市町村担当者からそれぞれの地域の制度運営状況について紹介し、また現在の課題について議論したことにより、今後の取り組みの参考となる有意義な会議となりました。



写真 2 推進連絡会議(情報共有、課題解決)

4. 森林経営管理制度の「担当職員研修」

制度の推進を図るためには、市町村事務を遂行する上で必要な知識及び技術を習得し、適切かつ円滑な制度運営が行えるよう、担当者の技術力向上を行う必要があります。センターにおいては、県や林野庁の協力を得て、森林計画制度など森林・林業行政全般の基礎研修、森林経営管理制度に係る市町村事務の実務研修の企画・実施に務めました。

特に市町村事務実務研修として9月25日、26日の2日間に渡り、制度を担当する林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室の職員を講師に迎え、森林経営管理法の概要や各種事務手続きの講義(写真3)や、意向調査対象の検討・経営管理権集積計画の作成・市町村森林経営管理事業の積算といった一連の市町村事務をワーキング形式(写真4)で行うなど、制度運営に必要な能力を身につけるための研修を開催しました。

研修後のアンケートでは、課題として「林業に精通した職員がいない」、「森林境界が不明確」などの意見があり、必要な対策としては「事務マニュアルの整備や研修の実施」、「人的な支援(技術者派遣等)」などが挙がりました。今後も制度担当者のニーズに即した研修を企画・実施していきます。



写真3 林野庁講師による講義



写真 4 集積計画作成等のワーキング

5. 今後の取組

本制度は、適切な経営や管理が行われていない森林を、市町村が所有者とともに計画を定め、必要な権利を預かり林業経営者へつなぐ、または直接管理するという画期的な制度です。特に一年目の取組が制度を確実に定着させるためには重要であり、更なる制度推進のためにも、市町村担当者の奔走だけではなく、地域の林業事業体の理解と協力が不可欠です。これからも引き続き、関係者の連携をより一層に深め、しっかりと情報と課題を共有し、林業の成長産業化に向けた、制度の有効活用を行っていく必要があります。



令和元年度 全国治山・林道コンクール

令和元年11月27日、一般社団法人日本治山治水協会、日本林道協会主催による治山・林道工事コンクールの表彰式が「全国都市会館」(東京都)で行われ、島根県から推薦した工事が農林水産大臣、林野庁長官賞、日本治山治水協会長を受賞しました。



前列左から (株)庭の川島多々納代表取締役、(-社)日本林業協会前田会長、林野庁太田次長、(有)白川建設白川代表取締役

1. 第35回 民有林治山工事コンクール

受賞区分 一般社団法人日本治山治水協会長賞

工事名 平成29年度復旧治山事業

中山下地区 治山ダム工事

受 賞 者 有限会社白川建設 白川 博幸



竣工(谷止工)(流路工)



下流人家被災状況(H25.8月豪雨災害)





(推薦理由) 隣接した人家間の狭い進入路を使い、谷止工・流路工を実施した現場であり、 地域住民への対応も良く施工管理、出来映えも優良な工事であった。 2. 第42回 林道維持管理コンクール

受賞区分 林野庁長官賞

路線名 城床線

受賞者 松江市長 松浦 正敬





(推薦理由)松江市は林道2路線(城床線、大谷東線)の除草、側溝や路肩部の泥上げを地元「林道愛護団」 へ委託している。作業延長が長いため、地域一体で作業に当たっている。作業後の確認において管理状 態が良好であった。

3. 第35回 民有林林道工事コンクール

受賞区分 農林水産大臣賞

竣工

工 事 名 県営林道開設事業

北山線第2工区その4道路工事

受賞者 株式会社庭の川島 多々納 敏







補強土壁組立状況



転圧状況

(推薦理由) 工事全般にわたり、適確かつ効率よく施工した。特に構造物の出来ばえが良く、埋戻等の 土工にも十分配慮し、現地状況に応じた適確な目的物を完成させた。

治山と林道 2019 No.121

発 行 令和元年12月

編 集 一般社団法人島根県森林協会 島根県松江市母衣町 55 番地 電話 (0852) 21-2669 FAX(0852) 21-2231 http://shinrin@shimane.jp/

E-mail: kyoukai@shinrin-shimane.jp

印 刷 社会福祉法人四ッ葉福祉会 授産センターよつば